

談話構成機能からみた外来語の基本語化 —通時的新聞コーパスを資料に—

金 愛蘭 (早稲田大学日本語教育研究センター／国立国語研究所) †

Inclusion of Loanwords into the Basic Words in the Japanese Newspaper Vocabulary : From the Viewpoint of Discourse Organizing Function

Eran KIM (Center for Japanese Language, WASEDA University／NINJAL)

1. はじめに

20 世紀後半の新聞文章では、具体名詞のほかに、抽象的な意味を持つ外来語も増加し、基本語化している。言語外的な理由によって説明できる具体名詞の場合と違い、抽象的な外来語の多くは、和語・漢語の同義語・類義語があるにもかかわらず基本語化しており、その増加の理由は言語内的に説明しなければならない。

例えば、基本語化した外来語の中には、その意味が拡大して多義語となり、その結果として、類義語の上位語の位置に立つようになってきたものがある。「トラブル」は、その代表的な例である (金愛蘭 2006a)。また、その用法が拡大して、類義語と文法的な面において分担する傾向を見せるものもある。「ケース」は、その代表的な例である (金愛蘭 2006b)。

しかし、「抽象的な事柄をあらわす外来語の基本語化」問題を追究するためには、このような語彙的な側面についての検討や文法論的な機能の検討とは別に、抽象的な外来語が実際の文章・談話の中でどのような機能を担うようになっているか、という文章論的な検討も必要になる。文章論的な機能には、Halliday and Hasan (1976) の「語彙的結束性 lexical cohesion」、McCarthy (1992) の「談話構成語 discourse-organizing words」、高崎みどり (1988) の「指示語句」などにかかわる機能が考えられる。たとえば、結束性の語彙的な表示である「再叙 (語彙的指示の同一性)」には、同一語の繰り返し、同義語や近似同義語、上位語、一般名詞 (general noun)、人称指示語などがあるとされるが、「トラブル」は、このうちの上位語および一般名詞としての特徴を持っていると考えられる。実際、後述する「通時的新聞コーパス」からは、次のような例が得られる (氏名のイニシャル化および下線は筆者)。

- (1) 大阪地裁で 23 日あった殺人事件の論告求刑公判 (K 裁判長) で、殺された娘の遺影を手に傍聴していた母親 (53) が、持ち込んだコードで被告の男性 (20) の首を絞めたり、遺影の額のガラスを割って破片を法廷に投げつけたりする騒ぎがあった。関係者にけがはなかった。刑事裁判での遺影の持ち込みは、先月から各地で相次いで許可されているが、こうしたトラブルは初めて。大阪地裁は「遺族としての気持ちの高ぶりもある。法的に事件にするかどうかは分からない」と話している。[00 年 10 月 24 日朝刊社会]

ここで、「トラブル」は、「こうした」とともに指示語句を形成しつつ、先行する「騒ぎ」の上位語としてそれを指示するという談話構成機能を発揮している。発表者は、このよう

† kim_eran@aoni.waseda.jp

な「トラブル」の談話構成機能がいつごろから、また、どのように獲得されてきたのかを明らかにすることも、「トラブル」の基本語化の要因を考える上で重要なポイントになるものと考えている。

そこで、本発表では、20 世紀後半の新聞における抽象的な外来語の基本語化現象を、それら基本外来語の新聞文章における文章論的な機能の獲得という側面から考察する。具体的には、自作の通時的新聞コーパス（各年 36 日分増補版）^{注1}を用いて、どのような外来語が「指示語＋外来語」からなら指示語句（の名詞＝後要素）を形成し「談話構成語 discourse-organizing words」としての機能を担っているのか、また 20 世紀後半の新聞文章においてその機能をどのようにして獲得してゆくのかを動的にとらえることを試みる。

2. 資料—「通時的新聞コーパス」について

調査には、自ら作成した「通時的新聞コーパス」を用いる。同コーパスは、1950 年から 2000 年までの『毎日新聞』から、ほぼ 10 年おきに、毎月 3 日分（5 日・15 日・25 日）、各年 36 日分（全体では 216 日分）の朝刊全紙面の記事を、1950 年・60 年・70 年・80 年は『縮刷版』からテキスト入力し、1991 年と 2000 年については『CD－毎日新聞データ集』から抽出して作成した。基本的には、広告を除く記事を対象とするが、ラテ欄、都内版、地方版をはじめ、俳句・川柳、証券・株、人事、決算、訃告、競馬などは除外した。抽出比率は、約 10 分の 1 である。作成されたコーパスの規模は、表 1（空白は除く）の通り。データの規模は、全体で 1,600 万字を超え、ページ数の極端に少なかった 1950 年、やや少なかった 1960 年を除けば、各年ほぼ 300 万字程度となり、20 世紀後半の通時的な新聞コーパスとしては、他に例を見ない大規模なコーパスを構築することができた。詳しくは、金愛蘭（2011）を参照されたい。

<表 1> 各年の文字数

年	文字数
1950	793,692
1960	2,208,396
1970	3,183,297
1980	3,218,737
1991	3,265,786
2000	3,994,933
計	16,664,841

3. 先行研究

Halliday and Hasan (1976) は、「結束性は、テキスト内のある要素と、その要素の解釈に欠くことのできない他の要素との間の意味的な関係である」（邦訳 pp.9）とし、テキスト内の「語彙的結束性」は「再叙（語彙的指示の同一性）」と「コロケーション（語彙環境の類似）」によって表示されるとしている。さらに「再叙 reiteration」には、同一語の繰り返し (repetition)、同義語 (synonym) や近似同義語 (near-synonym)、上位語 (superordinate)、一般名詞 (people, stuff, move などのような一般的指示を持つ名詞類、general noun)、人称指示語 it などがある、としている。

一方、McCarthy (1992) は、語のタイプを文法語 (grammar words) と語彙語 (lexical words) とに区別した上で、テキスト分析の方法として、その中間にあるような機能を持つ

1 「通時的新聞コーパス」の作成にあたっては、(財) 博報児童教育振興会「第 3 回ことばと教育研究助成」と、文部科学省科学研究費補助金「20 世紀後半の新聞における外来語の基本語化に関する調査研究」（平成 22～23 年度・若手研究 B・課題番号 21720168）および「基本外来語の談話構成機能に関するコーパス言語学的研究」（平成 24～26 年度・若手研究 B・課題番号 23720241）の交付を受けた。本発表では、金（2011）の毎月二日分から、三日分に増補改訂したものをを用いる。

語を「談話構成語 discourse-organizing words」とした。例えば、“issue” “problem” “dilemma”のような語で、「これらの語は、テキストの分節の代わりをしているのである(ちょうど代名詞のように)。分節は、1つの文である場合もあるし、数個の文、パラグラフ全体、あるいは、それよりも広い範囲である場合もある」とする(邦訳 pp.105~pp.107)。つまり、「談話構成語」は、テキストの内容や分野を伝えるための語というより、テキストの構成・構造を示す語で、話題を発展させ広げていくことで、より大きなテキストパターン(例えば、「このジレンマを打開するための解決策としては…」のような場合、「問題—解決」になる)を生成し、談話の全体像を予測させる働きを持つ語である。

以上のような「談話の構成に役立つ語」に関する問題は、文章論研究におけるテーマの一つである。しかし、和語や漢語について触れているものは散見するが、外来語の談話構成機能にふれているものはほとんどない。また、従来の外来語研究においても、このような文章論的なアプローチを採ったものは管見の限りない。今後、語のリスト化と基本語化過程との関連を明らかにしていかなければならない。

4. 調査と結果

テキスト内の語彙的結束性は、同語反復のほかにも、同義語・類義語、または上位語(さらに広い語彙概念を表わす総称的な名詞も含む)としてあらわれる。また、上でも述べたように、McCarthy (1992) の「談話構成語」や高崎 (1988) の「指示語句」もある。

そこで、本発表では、指示語の中でも「この」を伴った「この+外来語」の形式に限定し、前で述べた部分をどのように後ろへつなぎ、テキスト性 (textuality) を生み出しているかについて、コーパスに基づく調査を行なった。

4. 1 調査

データは、上記「通時的新聞コーパス」から、全文検索システム「ひまわり」を使って、「この」にカタカナ文字列が後接するレコードを抽出し、さらに、上記の構造を有するものを目視によって抜き出した。ただし、「この」に後接する後要素が句になっているもの(2)や合成語のもの(3)、および人名・地名など固有名詞のものは、対象外とした。

- (2) ドイツの福祉はかなり進んでいて、盲導犬の訓練施設や訓練師の養成も充実している。このドイツの事情が日本にも役立つのではないか、… [91年5月5日家庭]
- (3) …株価は業績不振から6月下旬以降急落、今月に入って倒産説も流れ、株価は10ドルを切った。ゼロックスはこのリストラ策実施で、来年第1四半期からは黒字化すると説明している。[00年10月25日経済]

4. 2 調査結果

通時的新聞コーパスにおける指示語句「この+外来語」の用例数の変化は、表2の通りである。

<表2> 通時的新聞コーパスにおける用例数の変化

	1950年	1960年	1970年	1980年	1991年	2000年
この+外来語	19	103	196	175	71	93
	23.9	46.6	61.6	54.4	21.7	23.3

(4.1で述べた対象外を除いた数、上段は延べ語数の実数、下段は100万字当たりの換算値・小数点第二位四捨五入)

5. 考察

通時の新聞コーパスにおける指示語句「この＋外来語」を分類した結果、まず、大きく3種に分けることができた。以下、具体例をあげながら説明する。

5. 1 同一語の繰り返しによる結束性

同じ語を繰り返し使うことにより、文章の結束性が保たれる場合である。これには、同じ語を「そのまま繰り返し」使うタイプと、前に出現した語の類概念となる部分を取り出して用いる「類概念抽出」タイプの、二通りがある。

【そのまま繰り返し】

- (4) 一、また大型人工衛星には予備の燃料を持ったエンジン¹を装備することもできる。このエンジン²によって人工衛星が大気の濃い層の中に入る時… [60年2月5日外電]
- (5) …ような教育を信条とする人たちが大正十二年に「教育の世紀」社というグループ¹をつくって、同名の機関誌をだした。このグループ²の事業として自由な教育をする私立小学校がたてられ、「児童の村」という名がつけられた。[80年3月15日家庭]
- (6) …を主力商品として売出し、一五、一三インチも大量生産に踏切るメーカー¹もある。このメーカー²がねらうのは、年収八十万円から百万円の階層。[70年7月5日家庭]

【類概念抽出】

- (7) アルバイトでためた金で安い中古車を買ひ、初心者マーク¹をつけて規定通り走って、また驚いた。世の中の名ドライバーはこのマーク²を軽べつするようである。[80年1月15日投書]
- (8) ここを拠点に11月から来年3月まで、ヨーロッパの科学者らが結集して北極圏オゾン層を集中観測する「オゾン・キャンペーン」¹が実施される。近藤さんは日本からただ一人、世界でたった一つの装置とともに、このキャンペーン²に参加する。[91年12月15日科学]
- (9) 東京・銀座の三越銀座店で、偽造クレジットカード¹で洋酒八万円相当を買った男が築地署に詐欺の疑いで逮捕された。十四日までの調べで、男は偽造クレジットカードを使った別件の詐欺と改造ピストル所持で起訴されたが逃走、… (中略) …。調べによると、このカード²は五月初め、大阪市内の女性が紛失したもの。[80年6月15日社会]

5. 2 言いかえによる結束性

まとまりのあるテキストを作り出すために、同じ語を繰り返し使う必要はなく、前で述べた言葉の類義語や上位語を用いて言いかえることで、後続の文章へ展開していくことがある。これにも、「同義語または類義語」を使うタイプと、「上位語または一般名詞」を使う、二通りが存在する。

【同義語または類義語】

- (10) …が強まっていることが板硝子協会（東京都千代田区）による室内鏡の普及状況調査¹で分かった。 \HON\ このアンケート²は全国の電話帳から無作為抽出した一万四千五百世帯を対象に [91年9月25日家庭]
- (11) うっとりしい梅雨期¹、ひきつづいてやってくる暑い夏²—どちらも食欲の減退しがちで心身ともにゲンナリする季節だ。食欲の衰えは体力を低下させ病気を起こしやすくする。しのぎにくいこのシーズン³を健康に乗切る方法はないものか。[70年6月15日健康]

【上位語または一般名詞】

- (12) わたしは遺伝的に喘息があつて、若いときはその徴候はなかつたが、戦争から帰つて、喘息に苦しめられるようになった。 \ T 2 \ いろんな療法をやつたが、このアレルギーに対抗するものはなく、諦めるより仕方がないと観念していた。[00年10月15日総合]
- (13) 「人間は生きるために食べる。食べた栄養素を体内に蓄え、体に必要なものを作り出しエネルギーとして活用するのに、すい臓から出るインスリンが働くのです」 \ H O N \ このホルモンが不足すると、血液中のブドウ糖を… [91年10月5日家庭]

5. 3 とらえ直しによる結束性

「とらえ直し」とは、前で述べた事柄を、指示語を伴いつつ、書き手が何らかの形でとらえ直して、文章を展開していく場合である。その際、書き手は、前で述べた（文に限らず、一つあるいは複数のパラグラフになる場合もある）事柄を要約したり、命名したりするなどの「変容」を行なう。高崎（1988）では、指示語を含む複数の語で構成される一まとまりを「指示語句」と呼び、その変容のありかたとして、「要約」「名づけ」「比喻」「次元変換」「形式化」の5種に分けて論じている。以下では、高崎の分類を参考にしながら、調査の結果について考察する。

5. 3. 1 要約

前の叙述部分を端的にまとめたものを後要素の外来語として、指示語句をつくるタイプである。

- (14) ゲームがテレビで放送されたせいで、去年は男の子の間にローラー・スケートの売れ行きが好調だった。だが、このブームもすでに峠を越したという例もある。[70年3月15日家庭]
- (15) 一台、五万五千元と値が張るにもかかわらず、予想の二倍近い売れ行き（月八千台）だ。このヒットを生んだ秘密は……。[91年12月15日経済]
- (16) コンピューター要員の不足は世界的な関心事。西独だけをとつても、一九七五年までに五万人の熟練プログラマーおよびオペレーターが必要だという。このため西独教育科学省はこのギャップを埋めるため、多くの大学に“情報科学学部”を創設する提案を考慮中。[70年6月25日経済]
- (17) 去年の輸出入状況をみると輸入約四十億円に対して、輸出は四億円と十分の一程度。だが自分が考案し自分の会社でつくった製品をもって、戦後三回も欧米を歩き回った井上さんからみれば、このアンバランスは必ず解消できるという。[60年4月25日商工]

5. 3. 2 次元変換

前で述べられたことを品詞変換させて再登場させたり、“辞的”なものから“詞的”なものへと次元を変換させたりするタイプである。ただし、外来語の場合、上記の「要約」との区別が必ずしも判然としないものも多い。

- (18) 租税収入は七月末までに前年同期比一三・四%増の五兆二千六十億円と好調で、このペースが続けば今年度の税収は当初予算の二十六兆四千百十億円を四千九百億円程度上回る。[80年10月5日経済]
- (19) …世界選手権の直後、マキシーモフはエジプト代表の監督の座に請われた。年俸30万ドル（約3150万円）という条件だった。ロシア代表監督としての年俸が約10

万ルーブル（約37万円）のマキシモフにとってこの「オファー」が魅力的に映らないはずがない。[00年8月5日スポーツ]

- (20) アミノ酸はたんぱく質の倉庫のようなもので、中のたんぱく質は絶えず古いものが分解され新しいものが作られている。「体が小さいほどこの「サイクル」が早く、アミノ酸の倉庫もいっぱいあるからうまい」と沖谷さん。[00年4月5日家庭]
- (21) …よう」「薬の副作用、手術の後遺症をしっかりと聞こう」「不要と思う検査、手術から逃れよう」——などで、この「アドバイス」をめぐって活発な討論が行われた。[00年5月5日家庭]

5. 3. 3 命名

広い意味では「要約」に含まれるが、このタイプは書き手が考えや捉えかたを新たなものとして名づけることで、「再語彙化relexicalisation」させるタイプである。ほとんどの場合、臨時一語（石井1993）のようなものになるが、今回の調査²では、単独用法のみを取り上げたので、このタイプに当てはまるものは出現しなかった。

5. 3. 4 比喩

前の叙述内容と一見無関係に見えるものを、メタファーやメトニミーなどのような技法によって用いるタイプである。今回の調査では、「ウエート」「プロポーズ」「ギャング」の3語が得られた。

- (22) でも、現実には難しい。親から「がんばれ」と言われるより「がんばったね」と言ってもらううれしさを知っているのですが……。よい人、よい親、よい嫁（この「ウエート」が大きいかな？）に見られようと、必要以上に演じたり、その中に子供を巻き込んでしまって、自己嫌悪に落ち込んだり、悩んだりの連続です。[00年4月15日家庭]
- (23) いってみれば文化財保存側が経済開発側に“調和できません”と言い寄ったようなものだ。しかし、開発側がこの「プロポーズ」に応じるだろうか。“片思い”ではないか。今後ほんとうに文化遺産を守る戦いをはじめるのなら… [70年9月15日総合]
- (24) わけても迫力に富むのは、彼らの敵、大スズメ蜂の襲来を叙した部分だろう。虫の世界で猛威をふるうこの「ギャング」のすさまじさ、恐ろしさ。辛苦を重ねて蜜蜂を養ってきたのに、たちまちのうちに全滅させられて… [80年5月5日読書]

5. 3. 5 形式名詞化

前で述べた事柄をまとめたり名づけたりする等の機能はほとんど認められず、大きな範囲を漠然と受け止めるだけの役割をする。今回は、以下の例しか見られなかった。

- (25) とくに北の富士の左差しを完全に封じて先手をとったのは立派。「左差しでないと相撲がとれない」北の富士の速攻が活かされるかどうかはその“左差し”にかかっている。前乃山がこの「ポイント」をおさえて、東土俵から向こう正面へ北の富士を押立てた。[70年3月15日スポーツ]

² 今回、「この」の後ろにカタカナ表記がくる場合とともに、“、〔、〔〔、〔〔、〔〔の記号が来る場合も合わせて抽出したが、単独用法では、このタイプのものは見当たらなかった。

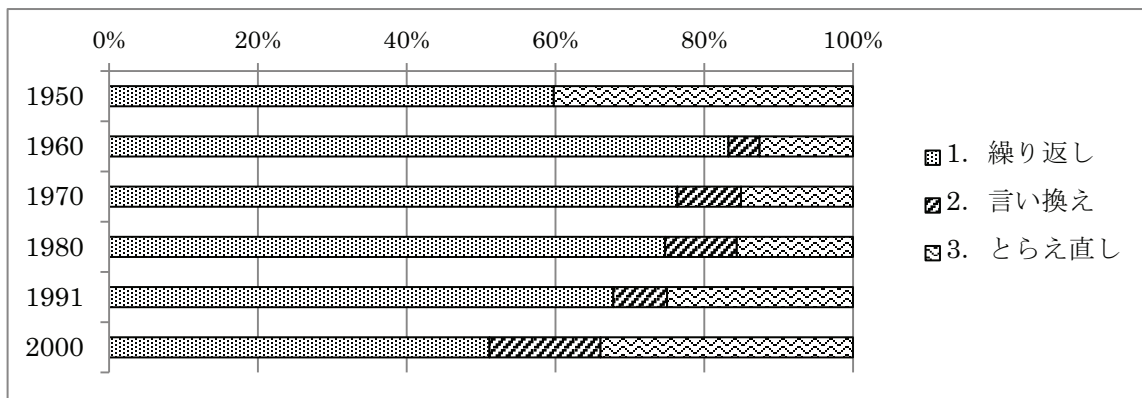
5. 4 外来語の文章機能の拡大

以上の分類が「通時的新聞コーパス」においてどのようにあらわれるかを通時的に調査した結果を、表3と図1に示す。

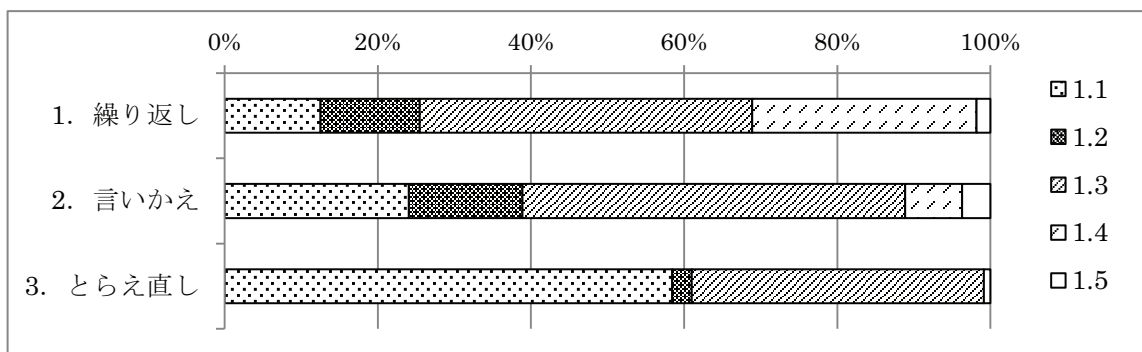
<表3> 「この+外来語」の用法の通時的変化（実数・換算値）

	1950年	1960年	1970年	1980年	1991年	2000年
1. 繰り返し	9	79	142	125	46	46
	11.3	35.8	44.6	38.8	14.1	11.5
2. 言い換え	0	4	16	16	5	13
	0	1.8	5.0	5.0	1.5	3.3
3. とらえ直し	6	12	28	26	17	29
	7.6	5.4	8.8	8.1	5.2	7.5
4. なし		1	7	5		3
5. 保留	4	7	3	3	3	1

*上段は延べ語数の実数、下段は100万字あたりの換算値



<図1> 「この+外来語」の用法の通時的変化（比率）



<図2> 用法別の意味分野

<図1>からもわかるように、データの規模が小さい50年を除くと、「繰り返し」が減り、「言い換え」と「とらえ直し」が増えてきていることがわかる。つまり、文章論的には、外来語がより複雑な文章構成機能を獲得してきているのではないかと考えられる。

また、『分類語彙表 増補改訂版』（国立国語研究所 2004）の大項目（部門）を用いて、区分ごとの意味分野をみてみた。その結果（図2）、「繰り返し」は「1.4 生産物・用具」が多

く、「言いかえ」と「とらえ直し」は抽象的な事柄（1.1 抽象的關係と 1.3 人間活動）が多いことがわかった。とくに「とらえ直し」は、「1.4 生産物・用具」の使用例はなく、「1.1 抽象的關係」が他のものより多い。これは、20 世紀後半の「抽象的な事柄を表す外来語の基本語化」現象（金 2011）と合致するところがあり、その背景に「とらえ直し」といった談話構成機能の拡大が関係していることを示唆するものである。

6. 今後の課題

今回の調査結果のさらなる検討はもちろん、今回対象外とした合成語用法や「その」「そうした」などのソ系の指示語句を含めた拡大調査を行なう必要がある。さらに、語別に指示語句調査を行ない、金（2011）で行なった語別の基本語化パターンの結果と合わせて検討したいと考えている。

また、これは紙面の大小によるところが大きいためあまり意味を持たない可能性もあるが、紙面構成のない 50 年を除き、よく出現する紙面としては、経済面、スポーツ面、社会面、家庭面、（特集含むともっと多くなる）総合面の順であることがわかった。今後、紙面別（テキストタイプ）にその用例を吟味することも必要である。

謝 辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金「基本外来語の談話構成機能に関するコーパス言語学的研究」（平成 23～25 年度、若手研究 B）による補助を得たものです。

文 献

- 石井正彦（1993）「臨時一語と文章の凝縮」『国語学』173
- 金愛蘭（2006a）「外来語『トラブル』の基本語化—20 世紀後半の新聞記事における—」『日本語の研究』2 巻 2 号
- 金愛蘭（2006b）「新聞の基本外来語『ケース』の意味・用法—類義語『事例』『例』『場合』との比較—」『計量国語学』25 巻 4 号
- 金愛蘭（2011）『20 世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化』『阪大日本語研究』別冊 3 号
- 金愛蘭、石井正彦（2012）「同格連体名詞の外来語—文法機能からみた外来語の基本語化」『韓国日本語学会第 25 回学術発表会予稿集』
- 高崎みどり（1988）「文章展開における“指示語句”の機能」『国文学 言語と文芸』103 号
- 高崎みどり（2012）「テキストの結束性に与る語彙とその機能について」『第 1 回コーパス日本語学ワークショップ』予稿集、pp.7-14
- Halliday, M.A.K. and Hasan, R. (1976) *Cohesion in English*. London. Longman. [安藤貞雄ほか訳『テキストはどのように構成されるか』ひつじ書房、1997]
- Halliday, M.A.K. and Hasan, R. (1985) *Language, Context, and Text: Aspects of Language in a Social-Semiotic Perspective*. Deakin University Press. [筧壽雄訳『機能文法のすすめ』大修館書店、1991]
- McCarthy, M. (1992) *Discourse Analysis for Language Teachers*. Cambridge Language Teaching Library. CUP. [安藤貞雄・加藤克美訳『語学教師のための談話分析』大修館書店、1995]